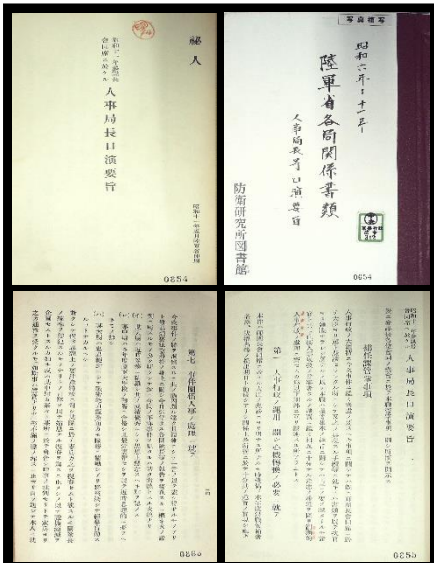


平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 後宮 淳 1884～1973 年 》

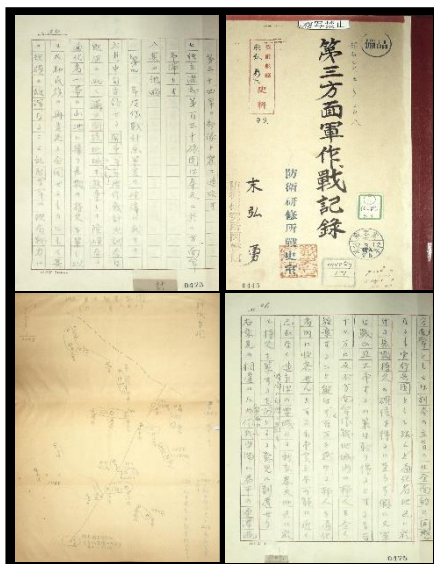
—京都府出身の陸軍大将—



陸軍省各局関係書類

(登録番号：中央-軍事行政法令-312)

後宮淳大将は、明治 38 年に陸軍士官学校(17 期)、大正 6 年に陸軍大学校(29 期)を卒業し、翌 7 年のシベリア出兵時に関東都督府付(野戦交通部員)となります。じ後、師団参謀、連隊長などの勤務を除いて昭和 9 年 3 月の少将昇進まで鉄道に関連する職務を歴任します。中でも、昭和 7 年 2 月からの関東軍司令部付兼満鉄嘱託においては、満鉄の管理、委託経営などに任じます。9 年 8 月には参謀本部第三部長に就任しますが、永田鉄山軍務局長斬殺事件の後、10 年 8 月陸軍省人事局長となります。後宮は実務実績を重視し、天保銭(陸大卒業徽章)の廃止、陸大卒業業者優遇の大佐抜擢案を否定、また二・二六事件後には、古参大将の一斉待命、事件関係又は同調者の退職・処罰・転任などを行います。この史料は、昭和 11 年人事局長当時の参謀長会同における口演の要旨であり、陸軍中央の人事に対する断固とした考えを読み取ることができます。



第三方面軍作戦記録

(登録番号：文庫-依託-58)

その後、後宮は、昭和12年3月陸軍省軍務局長、8月中将に昇進し第26師団長、第4軍司令官、南支那方面軍司令官、支那派遣軍総参謀長を歴任します。17年8月大将に昇進、中部軍司令官、19年2月軍事参議官兼参謀次長、3月には航空総監も兼ね、8月第3方面軍司令官に親補され満州西北方面の防衛を担当します。終戦間近、関東軍は、太平洋方面の戦況悪化を受け、対ソ戦を視野に入れ満州南部通化要域での持久戦を計画します。一方で後宮は、居留民保護の観点から、連京線(大連～新京間)付近で反撃を計画しますが停戦となり、シベリアに抑留されます。この史料は、元第3方面軍参謀の末弘勇陸軍大佐が、終戦前後の方面軍司令部の指揮幕僚活動などを執筆したもので、当時の作戦の実相を読み取ることができます。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>